アフターDCで観光魅力発信

栃木県那須塩原市

昨年春の栃木デスティネーションキャンペーン（DC）から1年、4月から6月までアフターDCが実施される。那須塩原市はDCでアピールした四つのコンテンツ（朝食、スイーツ、地酒、鍋）をブラッシュアップし、観光客を迎える。「行ってみたい町」「また行きたい町」と思わせるためのチャレンジは続く。

木下昭彦・那須塩原市観光局長

「アフターDCで飛躍を！」

――アフターDCは市の観光にとってどんな位置付けですか。

「DCは単なる集客キャンペーンではなく、地域の魅力をブラッシュアップして、それを広く告知する場と捉えています。DCで観光客が増えた、減ったと一喜一憂するのはあまり意味がありません。これはアフターDCでも同じです」

「観光コンテンツをしっかり磨き上げ、市場にアピールするとともに、観光客の満足度を高めるのが基本的な考えです。

観光客の満足度高める

4コンテンツ 参加施設も年々増加

大事な3カ月であることはいうまでもありませんが」

――プレDC（17年）、DC（18年）と、地域一体となって取り組んできたと思いますが。

「観光業者はもちろん、飲食店の方々もとても協力的で、本来持っているコンテンツの魅力がみんなの力で磨き上げられています。コンテンツの参加施設も着実に増えています。選択と集中ではありませんが、コンテンツを絞り、方向性をはっきりさせているので、事業者の方々も取り組みやすいのではないでしょうか」

「宿泊施設を対象とした『朝食イッピン物語』は45施設、宿泊施設と飲食店などが対象となるせん。その意味では、例えば、いちごとみるくフェアは旅館の板前さんと菓子職人が腕を競い合っています。相乗効果も生まれ、いい具合に回っていると思います。プレDCから取り組んでおり、これが目当てで再訪する観光客も増えているようです」

――4コンテンツは那須塩原の魅力そのものだと思います。今後も継続していく？

「アフターDCで終わりというものではありません。反省点はそのつど出てきますので、それを生かし、さらに磨き上げて市場に投入していきます」

――入り込み状況はいかがですか。

「市全体の宿泊客数は約100万人で、そのうち85万人ほどが温泉地です。また、インバウンドは1万人ほどですが、最近は個人のお客さまが増え、アジアから欧米豪と広がりを見せています。インバウンドが増えてくれるのは有難いですが、ターゲットはあくまでも日本人観光客です」

「塩原、板室両温泉は板室は30位となっていますが、ベスト10に入るのが目標です」

――DCではJR東日本の主要駅に市の観光ポスターが目立ちました。

「JRさんがとても協力的で、大宮駅では総枚数150枚のポスターを掲出しました。われわれはポスタージャックといっています（笑い）。アフターDCを前にすでに一部の駅では掲出が始まっていますが、皆さんの目に触れるよう、引き続き掲出していきます」

――県には那須御用邸があり、天皇家とのご縁が深いですね。今年は皇太子さまの即位があり、県も何かと注目されそうです。

「御用邸は那須町にありますが、天皇皇后両陛下は新幹線の那須塩原駅で降りられ、御用邸に向かわれます。市長もお出迎えいたします。市には『天皇の間記念公園』があり、即位には大きな関心を持っています。『塩原もの語り館』では即位に合わせ、企画展の開催を予定しています」

――昨年5月、「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫～」が日本遺産に認定されました。市の新たな観光資源ですね。

「明治期の華族農場による那須野が原開拓の物語が中心で、ストーリーを構成する31の文化財のうち、15が市内にあります。しかし、日本遺産を観光資源として生かしているかというとまだまだです。どう知名度を高め、足を運んでもらえるようにするか、これからの課題です」

トピックス

即位で注目される 天皇の間記念公園

建物の中にある「御座所」

那須塩原市は天皇家との縁が深く、市内には「天皇の間記念公園」がある。今年は皇太子さまが新天皇に即位されるとあって、皇室の動きに国民の関心が高まることが予想され、市も注目を集めそうだ。

「塩原もの語り館」によると、明治35年夏に初めて塩原温泉を訪れた皇太子殿下（後の大正天皇）は、那須塩原の自然や気候、温泉などをお気に召され、翌年も避暑に訪れられた。37年には三島弥太郎子爵が塩原福渡に構えていた別荘の献上を願い出て、「塩原御用邸」が誕生したいきさつがある。

天皇の間記念公園は、明治、大正、昭和の三代にわたり、大正天皇、昭和天皇をはじめ、高松宮殿下、三笠宮殿下など多くの皇族が避暑地として訪れ、利用された塩原御用邸の天皇の間を昭和56年に現在の場所に原形のまま移築し、保存されている。

塩原もの語り館では4月7日から9月末まで、大正天皇（嘉仁親王）と当時の塩原温泉をテーマにした企画展「大正天皇と塩原温泉」を開催する。大正天皇が塩原温泉を訪れた理由や、滞在中のご様子、和歌や漢詩などの作品を展示する。

問い合わせは塩原温泉観光協会、☎0287（32）4000。

取材協力　一般社団法人那須塩原市観光局
〒329－2801　栃木県那須塩原市関谷448の4
☎0287(46)5326　FAX0287(46)5328

食の4コンテンツでおもてなし

いちごとみるくフェア

特産の牛乳といちご活用
旅館など74施設が腕競う

那須塩原市は生乳生産本州一を誇る。いちごはいわずと知れた栃木の名産品で、生産量、販売額とも全国1位だ。

その牛乳といちごを組み合わせたオリジナルスイーツを提供するのが「いちごとみるくフェア」。パンケーキやドリンクなどいろいろな形でお目見えする。女性や子どもはもちろん、これが目当てで訪れるスイーツ男子も少なくない。

旅館・ホテル、飲食店など74施設で味わうことができる。旅館・ホテルの板前や菓子職人らがプライドを賭けて創作したオリジナルスイーツ、甘いのが苦手な人もぜひ味わってほしい。

カフェレストラン洋燈（らんぷ）の「フレッシュいちごみるく」は540円。千本松牧場の牛乳と「とちおとめ」の昔懐かしい味。また、鈴木屋SUZUの森カフェではいちごたっぷりミルクかき氷（650円）といちごたっぷりヨーグルトとて（450円）の2種類を提供。

いちごたっぷりヨーグルトとは自家製ヨーグルトをベースに、生クリーム、カスタード、手作りいちごピューレをとて焼き包んでいる。

フェアは5月10日まで実施。スタンプラリーも実施しており、フェア参画の宿泊施設や飲食店などを巡ってスタンプを集めれば、2個でハローキティオリジナルピンバッチ、3個で5千円分、4個（1個は宿泊施設を含む）で1万円分の宿泊券が当たる。

カフェレストラン洋燈のフレッシュいちごみるく

鈴木屋SUZUの森カフェのいちごたっぷりヨーグルトとて

朝食イッピン物語

こだわりの味を提供

プレDC、DCと好評だったのが「朝食イッピン物語」だ。旅館・ホテルのこだわりが宿泊客の心を捉え、「また来よう」と思わせる効果を生んだ。アフターDCでは45軒が腕によりをかけた朝食を提供する。

朝食は、①滞在中の最後の食事で宿泊客の印象に残りやすい②夕食より単価や立地に左右されない競争ができる③宿泊単価が一律でなくても一定のこだわりが出せる―などのメリットがあるという。

旅館・ホテルのこだわりはさまざま。食材は地元産の米やみそ、朝採り野菜、内容も温泉粥や温泉卵、湯葉。調理は卵ひとつにしても焼いたり、オムレツにしたり、生卵に合うトッピングを用意したり…。

ただ黙って出すだけでは思いは伝わらない。どこにこだわっているかを宿泊客に伝えたり、お品書きで示したり、と丁寧に説明する。

写真は彩つむぎの朝食。塩原大根の皮を使った胡麻みそきんぴら、干ぴょうとずいきと地場野菜のみそ汁、那須郡司豚のポークサラミと地場野菜のサラダ、那珂川の水で育った鮎の一夜干し、明賀家本館の源泉を使った温泉湯豆腐など、地元食材をふんだんに使っている。

那須塩原地酒物語

利き酒や飲み比べを

酒どころのイメージがあまりない栃木県だが、江戸時代は江戸への日本酒の一大供給地であり、多くの酒蔵が、特に県南地域にあったという。

お酒の基礎になる水が奇麗でおいしいことから、酒造好適米「とちぎ酒14」で造られる地酒も増えている。

「那須塩原地酒物語」は昨年のDCで登場。地酒に改めて注目、栃木の利き酒めぐりをコンセプトに、日本酒好きにアピールする。「地酒は単価も高いが、お客さまの満足度も高い。栃木の酒のおいしさを知ってもらえれば」と観光局。アフターDC以後も引き続きアピールしていく。

アフターDCでは旅館・ホテル48軒が参加。各施設は厳選した地酒を利き酒、および飲み比べとして提供する。具体的には、①基本は日本酒だが、ワインや果実酒、焼酎なども県産ならOK②提供数は3種類以上―が主な条件。

彩つむぎの利き酒セットはA、B、Cの3セット。いずれも千円で提供している。写真はCセットで、右から益子町・外池酒造店の「燦爛」（純米酒）、市貝町・惣譽酒造の「惣譽」（辛口特醸酒）、大田原市・天鷹酒造の「天鷹心」（純米大吟醸）。彩つむぎ厳選のお酒だ。

巻狩鍋フェア

県を代表する鍋料理

「名物料理」「ご当地グルメ」として〝ブランド化〟していく狙いもある。

そもそもは源頼朝が1193年に那須野ケ原一帯で盛大に狩りを行ったことに由来する料理。まつりは10月の第4日曜とその前日の土曜日に市内で開催される。

圧巻は直径2・2㍍の「大将鍋」と呼ばれる巻狩鍋で、約2500食が調理できる。また、勇壮な巻狩太鼓の演奏や本物の馬を使った「巻狩ショー」もあり、多くの観光客でにぎわう。

アフターDCでは旅館・ホテル、飲食店など43軒が参加し、自慢の味を提供する。提供期間は5月10日までとなっている。

巻狩鍋は肉と野菜が一緒に入った料理で、肉の種類、入れる野菜は問わないが、県産食材を1種類以上使用することが条件。味付けはみそ、しょうゆ、塩などで、各施設の腕の見せどころとなる。

写真は彩つむぎの巻狩鍋。那須郡司豚、栃木しゃも、八溝しし丸などの肉に、那須の白美人ねぎや契約農家の野菜などがタップリ入っている。しょうゆ仕立て、みそ仕立てがある。締めのうどんは味がしみ込んで絶品。

別注は1人2160円から。

「「「